

令和6年度 小樽市立塩谷小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

- ① 昨年度の改善プランでは、くり返し指導の結果、確認テストにおいて、国語・算数とも3つの学年で定着目標を達成した。
- ② 全国学力・学習状況調査結果と標準学力調査結果では、条件に合わせて文章を要約したり、求め方を説明したりするなど「書く力」に課題が見られた。
- ③ 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙結果では、ゲーム等の時間が長い児童が多く、毎日家庭学習に取り組んでいるが、全国と比べ家庭学習時間が短い。
- ④ 生活リズムチェックシートや児童アンケート結果から、「学年×10分+10分」以上家庭学習をしている児童の割合が低く、家庭学習習慣が十分身につけておらず課題が見られる。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される平仮名、片仮名、漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。
2年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。
3年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。
4年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。
5年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。
6年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。

<算数科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
2年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
3年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
4年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
5年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
6年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（70%）
2年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（70%）
3年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（70%）
4年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（70%）
5年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（70%）
6年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（70%）

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①漢字・計算問題の繰り返し指導
- ②放課後及び長期休業中の補充学習の実施
- ③高学年での教科担任制の実施

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①ユニバーサルデザインの視点を生かした焦点化・共有化による構造的な授業づくり
- ②一人一台端末を効果的に活用した、「子ども」を主語にした授業づくり

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①「家庭学習の手引き」及び家庭学習カード等の活用
- ②宿題(1～3年)、宿題・自学ノート(4～6年)の活用・工夫
- ③「おたるスマート7」の啓発と情報モラル教室の実施

4 実施計画

年月日	計画内容
R6年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ○R6全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査自己採点結果の分析による課題の明確化と共有
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査結果分析
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・児童・保護者アンケート、職員評価の実施・分析 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・夏季休業中の学習会の実施
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・生活改善に向けた保護者への啓発 ○R6全国学力・学習状況調査結果分析
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果による課題の明確化と共有、改善策の実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会の実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・児童・保護者アンケート、職員評価の実施・分析 ・チャレンジテスト（2学期問題）の実施 ・冬季休業中の学習会の実施
R7年	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・生活改善に向けた保護者への啓発
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・学力向上改善プランの検証
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①チャレンジテスト、学力向上検討委員会「確認テスト」結果
- ②教職員自己評価
- ③児童・保護者アンケート、職員自己評価結果

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①児童・保護者アンケート、職員自己評価結果
- ②校内研修等での授業改善の検証
- ③教職員自己評価

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①児童・保護者アンケート、職員自己評価結果
- ②児童・保護者アンケート、職員自己評価結果
- ③児童・保護者アンケート